

福マネット

<発行日>
平成27年10月1日

第11号

「福マネット」とは“福島のケアマネジャーのネットワークを深めていこう!”という思いが込められています。

巻頭言



一般社団法人 福島県介護支援専門員協会 会長
千葉喜弘

平成27年度社員総会にて、会長職を再任させていただくこととなり、身の引き締まる思いで協会活動に貢献してまいりたいと、心新たにいたしました。

今年は、介護報酬の大幅な改正が実施されました。事業所にとっては痛手となる減額改正となりましたが、利用者にとっては介護報酬がどう変わろうが、支援の質は担保されなくてはなりません。質の良いサービスを提供し、利用者の権利擁護を意識した支援を維持することが大切です。

また、介護給付費分科会の中で議論された介護支援専門員の資質向上に対し、「自立支援に向けた目標指向型であるとともに、リハビリの重要性を理解し、医療と介護との適切なマッチングを行うことのできるケアマネが必要。」「ケアプランやケアマネジメントについての評価・検証を行うこと。」「28年度からケアマネ養成・研修課程も改正され、全ての研修のガイドライン

示された。」ところです。そのため、法定研修部会を組織強化し28年度の研修運営にむけて準備に取りかかっています。

また、今年度は、地域包括ケアの確立へ向けて、どの市町村も動き出しています。利用者のニーズに応じて適切にサービス提供がされるために、入院、退院、在宅復帰を通じてサービスが切れ目なく継続的に提供されることを挙げています。目的は、高齢者ができる限り長く地域社会で生活が続けられることにあります。

地域包括ケアシステムには、完成版はなく日々刻々と変化し続けるものと考えています。一人ひとりが抱える困りごとや心配ごとなどの生活上の問題が複雑・多様化していく中で、一つの制度を利用するだけでは、対応が難しいことも出てきます。各制度や社会資源をつなぎあわせていくこと、それは、誰かのためにシステム化するのではなく、自分の将来を見据えた地域づくりではないでしょうか。

介護支援専門員はケアマネジメントの専門職です。それぞれの地域のニーズに寄り添って、ゆっくりと着実に前進していけるよう歩んでいきたいと思えます。

今年度もより一層、私たち一人ひとりがその自覚と認識を新たに、私たち職能団体だからできること、しなくてはならないことを見極めて運営にあたってまいりますので、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

目次

巻頭言	1
福マネットリレー “結”	2
震災関連	2
代議員総会について	3
社員総会記念講演会レポート	4
新規会員募集とFネット 口座引き落としのお願い	4

ハイライト

- ◆福マネットリレー “結”
- ◆あの時の子どもたちが “今”
- ◆代議員総会
- ◆社員総会記念講演会

福マネット リレー

結

JAみちのく安達居宅介護
支援事業所にほんまつ

菅野 まゆみ

毎月11日、ニュースで「今日で震災から〇年〇ヶ月…」と報道されますが、その「〇年〇ヶ月…」は、私のケアマネ人生と同じ歩みです。

私は、先輩から業務を引き継ぎ、自身の介護支援専門員のスタートした頃に東日本大震災に見舞われました。大震災の直後、まずは安否確認を始めましたが、電話は不通、怪我や急変があったのかと、無我夢中で車を走らせ、ご利用者やご家族の無事を確認し、互いに安堵したあの日が昨日のように思い出されます。

さて、我が二本松市においても地域包括ケアシステムの実現のための第一歩となる地域ケア会議が始動しました。

過日、二本松市地域包括支援センターの主催により、地域の実情に沿って、地域資源をどのように構築していくべきか、課題を的確に把握し、解決していく手段を導き出すための会議が開催され、地域の特徴（特長）やニーズ・サービス不足事項を明らかにするために、高齢者を支えていくために必要な地域資源のあり方について検討しました。

民間バスの廃止による交通手段の確保の難しさや、障がいを持つご家族を介護してきた方が高齢になり、逆に障がいを持つご家族が介護する側に立ったときの介護支援専門員がすべき支援の仕方など、本人だけでなく家族の問題まで抱え込み悩むことが多くなっている現状が明らかにされました。

今後、更に高齢化が進むと、地域の高齢者を住民が支えていかなければならないことを改めて考えさせられ、ボランティアをも含む他職種連携を進めることなど、地域包括ケアシステムの重要性、そして困難性を痛感し、私達もより一層、その一員として力を尽くしたいと思います。

また、安達地方介護支援専門員連絡協議会においては、リスクマネジメントやスーパービジョンに関する研修等を定期的に開催し、毎回40名以上の参加があります。現任者の資質の向上に止まらず、将来の介護支援専門員を育成すべく、介護支援専門員の資格のない「非会員」の参加も受け付けており、参加者のみならず、各事業所の好評も得ています。

そして、最後に我々JAみちのく安達では、9月より「デイサービスセンターもとみや」をオープンしました。JAらしさを前面に打ち出すべく、乳和食（牛乳を「だし」として使い、塩分量を減らし、カルシウムなどの栄養分を補う調理法）の提供や、個別的なレク活動、機能訓練を提供することや、利用ごとにポイントが付き景品と交換するシステムを導入しました。

地域に必要とされるオンリーワンの事業所を目指していますのでよろしくお願ひします。



あの時の子どもたちが“今”

南相馬福祉会常務理事 大内 敏文

私たちは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、大切な家族やご利用者、職場の仲間など、数えきれない別れを経験してきた。

あれから4年6か月。「あつという間だった」と言う者、「まだ4年しか経っていない」と言う者、思いは人それぞれのものである。

全国でも介護人材不足が叫ばれているが、私たち被災地は更に深刻である。原発事故により避難を選択した多くの仲間が地元を離れ、4年半が経った今も、再開以降職場に戻った者は5～6人という状況であり、加えて放射能に対する不安やこれまでの頑張りに限界を感じ、離職する者が続いている。

南相馬市は、要支援者、要介護者が増え続け、高齢化率も23%から33%と若者が減少し高齢者が増加している。10数年先の地方都市の街、それが原発事故の被害を受けた被災地の現状である。

このような状況の中、震災当時中学2年だった子供たち3人が、高校卒業後の4月から当施設で働いている。「被災地の高齢者の力になりたかった」「働く若者が少ない南相馬の将来のための一助になりたい」など力強い言葉が勇気を与えてくれる。

全国の新聞報道を見ると、時と共に災害の重大さや被災地

が抱える問題が忘れ去られようとしているのを感じる。原発事故がもたらした問題は、単に放射性物質の除去や廃炉だけの問題に止まらず、地元住民が将来に夢と希望を持って生活していくための基盤を確立しなければならないところにもある。様々な問題、解決のために今も多くの人々が戦い続けている。刻々と変化する諸問題、苦しくて苦しくて、その場から逃れたいと思う日が今も続いているのである。しかしながら、震災当時の子供たちが、介護や福祉の仕事を選び、今、笑顔で頑張っている。どんなに苦しくとも困難な壁にぶつかっても、若い力と一緒にあれば、この困難を乗り越える力が湧いてくるような気がしてならない。



平成27年度

社員総会報告

平成27年5月16日(土)、福島県農業総合センター大会議室(郡山市)を会場に平成27年度社員総会が開催され、平成26年度事業報告及び決算報告、平成27年度事業計画(案)及び予算(案)等、すべての議案について承認されました。役員改選と併せて、事業計画(案)で提案した組織改編案が承認されたことから、平成27年度からの2ヶ年間、千葉会長以下、新執行部・新組織体制で本会を運営してまいりますので、会員の皆様にはご理解とご支援をお願い申し上げます。

なお、主な変更点は、公開講演会と会員研修の担当が各地域の持ち回りになったこと、そして受託事業部の名称が法定研修部に変更されたことの2点です。

また、役員改選では、26名の理事のうち7名の方が新理事として選任されました。



役員名簿

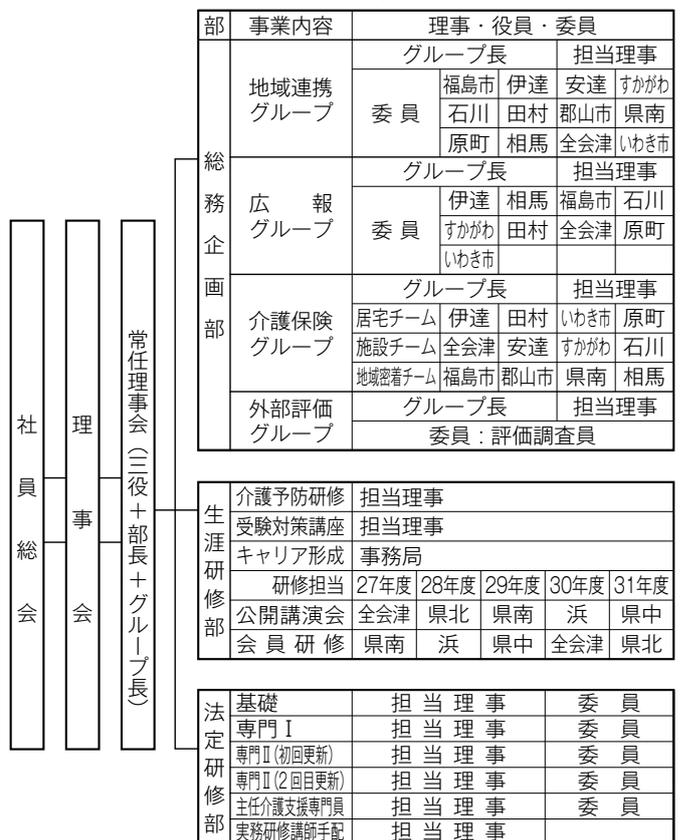
役職	地域	氏名	所属	備考	
1	会長	県南	千葉 喜弘	ひもろぎグループ	再任
2	副会長	郡山市	吉田 光子	郡山ソーシャルワーカーズオフィス	再任
3	副会長	安達	菊地 健治	特別養護老人ホームハーモニーみどりヶ丘	再任
4	副会長	いわき市	柴田 香織	いわき市生活・就労支援センター	再任
5	副会長	全会津	高畑かおり	天心ケアハイツ在宅介護支援センター	再任
6	理事	全会津	目黒 正一	柳津町高齢者生活福祉センターのぞみ	再任
7	理事	伊達	狗飼 孝則	介護老人保健施設プライムケア桃花林	再任
8	理事	田村	遠藤由貴恵	特別養護老人ホームこまち荘	再任
9	理事	福島市	田中 嘉章	爽秋会ふくしま在宅緩和ケア支援事業所	再任
10	理事	伊達	森 美樹	伊達市保原地域包括支援センター	新任
11	理事	県南	仁井田義弘	特別養護老人ホーム寿光園	再任
12	理事	伊達	貝沼 勝敏	伊達すりかみ荘居宅介護支援事業所	新任
13	理事	福島市	菊地 正樹	すこやか指定居宅介護支援事業所	新任
14	理事	安達	伊東 靖裕	社会福祉法人あだち福祉会法人本部事務局	新任
15	理事	郡山市	藤江 眞明	富田地域包括支援センター	再任
16	理事	石川	鈴木 京子	社会福祉法人石川福祉会	再任
17	理事	田村	村上 剛	小規模多機能ほほえみの里	再任
18	理事	すかがわ	渡邊 徳人	ゆう遊館居宅介護支援事業所	新任
19	理事	県南	田崎美江子	居宅介護支援事業所小峰苑	新任
20	理事	全会津	逸持治典子	養護老人ホーム会津長寿園	再任
21	理事	全会津	山浦さとみ	丸光ケアサービス会津支店	再任
22	理事	全会津	弓田 裕子	竹田指定居宅介護支援事業所	新任
23	理事	相馬	愛澤 俊行	相馬市地域包括支援センター	再任
24	理事	原町	大井 利巳	くにみの郷	再任
25	理事	いわき市	竹田 匡志	侑タロサ ケアプランセンター	再任
26	専務理事	すかがわ	和田由紀子	福島県介護支援専門員協会	再任
監事		石川	久保木友江	石川町地域包括支援センター	再任
監事		福島市	齋藤 隆雄	陽光園指定居宅介護支援事業所	再任

会員数

(平成27年5月15日現在)

地域	会員数
福島市介護支援専門員連絡協議会	176
伊達介護支援専門員連絡協議会	142
安達地方介護支援専門員連絡協議会	96
郡山市介護支援専門員連絡協議会	167
石川地方介護支援専門員連絡協議会	97
すかがわ介護支援専門員協議会	85
田村地方介護支援専門員連絡協議会	119
県南地域介護支援専門員協会	247
全会津介護支援専門員協会	380
原町方部介護支援専門員連絡協議会	49
相馬方部介護支援専門員連絡協議会	40
いわき市介護支援専門員連絡協議会	117
休止→双葉北(6) 双葉南(46)	52
合計	1,767

組織図



社員総会記念講演会レポート

社員総会記念講演会についての報告

全会津介護支援専門員協会 千葉 香世子

平成27年5月16日、福島県農業総合センターにおいて社員総会に引き続き記念講演会が開催されました。今年度の介護保険改正の中の「活動と参加に焦点を当てたリハビリテーションの推進」にちなんで、NPO法人アイ・キャン施設長、あさかホスピタルグループ診療支援アドバイザー 渡邊忠義先生に『生活行為向上リハビリテーション加算にケアマネはどう向き合うか』というテーマでご講演を頂きました。

生活行為向上マネジメントとは高齢者や障害者が「介護される人」から「主体的で積極的な生活をする人」になるために、疾病や老化による心身機能の低下からできなくなった作業が、方法や環境の工夫によってできるということを知り、生活への意欲を高め、またその作業を再獲得することが重要であり、自己実現に向けた積極的、活動的な生活を営めるよう支援すること。本人にとって、本当に大切に重要な「やりたい」と思っている生活行為に焦点を当てたマネジメントであるということでした。

とても解りやすく参考になる講演会でした。千葉会長をはじめ理事の皆様、事務局の皆様にご感謝申し上げます。

生活行為向上リハビリテーション加算に ケアマネはどう向き合うか

居宅介護支援事業所 ひまわり苑 渡部 元美

去る、5月16日に、あさかホスピタルグループ診療支援アドバイザー 渡邊忠義先生による講演会に参加しました。生活行為向上マネジメントは、高齢者・障害者が「介護される人」から「主体的で積極的な生活をする人」になるために、自己実現に向けた積極的・活動的な生活を営めるよう支援すること・本人にとって大切に重要な「やりたい」と思っている生活行為に焦点を当てたマネジメントツールであることを学びました。



事例を通して、生活行為向上マネジメントのサイクル（インテーク・アセスメント・プラン・介入・評価・考察）を行いながら、支援目標を共有するために、包括的な視点が大切であることを感じました。

今回の研修では、「生活をする人」として積極的に支援すべき時期であることが強調されていました。その人らしさを見出し、能力を引き出し、生かし「生活する人」という視点を忘れずに、連携を図りながら支援することが大切であることを感じました。

生活行為向上加算にケアマネはどう向き合うか
福島県作業療法士会 監事 渡邊忠義氏

新規会員募集とF-NET口座引き落としのお願い

会員の皆さん、お近くの介護支援専門員（有資格者）に、協会への新規入会及び再入会をお誘いいただくようお願いいたします！

また、会費の自動振替を勧めています。口座振替依頼書を提出されていない方はお早めに地域協議会事務局に提出いただきますよう重ねてお願い致します。口座振替依頼書は、お近くの金融機関（ゆうちょ銀行は除く）で入手できますので、窓口にて「F-NET用の振替依頼書」とお申し出下さい。詳しくは協会ホームページをご覧ください。

発行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会
会長：千葉喜弘
事務局：郡山市亀田二丁目19番地14号 チャレンジビル2階
TEL 024-924-7200 FAX024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報グループ：仁井田義弘 藤江 眞明 伊東 靖裕 丹内美樹男 清野 公隆 舟橋 静慈
天野和加子 佐藤 裕洋 三本松久美子 伊藤真樹子 小山 香織 佐々木香織